

<b>班任務割当表</b> <b>ICS 204-FEMA</b>		1. 危機名	2. 活動期間(日・時間)	1/1ページ
		FEMA-1731-DR-CA	11月5日 7:00 PST-11月6日 7:00PST PST:太平洋標準時	5. 作成者 作成日 RESL 07年11月04日
3. 部 作業	4. 班・グループ・集結地 G(サンタバーバラ郡)		6. 審査(企画本部長一州) ロドニー・メルセク/ジェリリン・ピーターソン	
9. 活動本部人員(808)566-2787 活動本部長:ジェフ・ラスク 活動副本部長:マイク・マコイ 州活動本部長:ベッキー・ワゴナー  班統括長 携帯電話: 州:キャサリン・カレー (805)570-3902 F:ジェフ・プリベイ (714)628-7113		100 ステートストリート サンタバーバラ、CA 93101		7. 審査(活動本部長一州) ベッキー・ワゴナー  8. 審査(活動本部長-FEMA) ジェフ・ラスク
<b>10. 割当</b>				
任務部隊/特別作業班/ リーダー	連絡先電話番号	人数	職務	レポート情報・ 備考
住宅特別作業班	キース・アーサー 626-431-3013	1	現地に査察官の配置を続け、住宅を査察する。	
対応部門	F.ジェフ・プリベイ (510)773-8040	1	あらゆるニーズや問題に対し、州の対応部門と協力し、技術的アドバイスをしたり、郷と調整する。	
RSF-15広報スペシャリスト	アマンダ・ビックネイル 731-865-6502	1	異なるメディアの支局、個人に対し、メディアアウトリーチを続ける。	
11. 特別な指示または資源のニーズ:				
12. 通信(本任務のために必要な連絡先無線及び/または電話番号) ICS-203様式及びJFO電話リスト参照のこと。				

<b>班任務割当表</b> <b>ICS 204-FEMA</b>		1. 危機名 FEMA-1731-DR-CA	2. 活動期間(日・時間) 11月5日 7:00 PST-11月6日 7:00PST PST:太平洋標準時	2/2ページ
3. 部 <b>活動本部</b>		4. 班・グループ・集結地 H(部族担当班)		5. 作成者 作成日 ビル・アダムズ 07年11月04日
9. 活動本部人員(808)566-2787 活動本部長:ジェフ・ラスク 活動副本部長:マイク・マコイ 州活動本部長:ベッキー・ワゴナー 部長:ファーリー・ハウウェル (510)220-7179		H班:マイク・パーカー(DIVB) mike.parker@dhs.gov 携帯電 話:816-516-4061 MEOV 電話: 770-488-9125 (F)770-488-9127 場所:部族班本部、カリフォルニ ア州リンカーン		6. 審査(企図本部長一州) ロドニー・メルセク/ジェリリン・ ピーターソン 7. 審査(活動本部長一州) ベッキー・ワゴナー 8. 審査(活動本部長一FEMA) ジェフ・ラスク
10. 割当 マイク・アンカーマンと、すべての現地訪問の調整を24時間前にすること(770)488-9125ま たは(626)222-4385				
任務部隊/特別作業班/ リーダー	連絡先電話番号	人数	職務	レポート情報・ 備考
SBA	マイケル・ティビト 626-431-3609	2	CSRをAAST#12に配置	
FEMAロジスティクス リンカーン H班	マーク・アカマン デスク: 770-488-9125 又は9124 携帯電話: 626-222- 4385 Fax: 770-488-9126 ジョン・ゴスマン	3	4個連結タイプのコンテナ、1個は冷蔵のものを維持 運営。 場所: 100 school Howe Canyon Road, Santa Ysabel Tribal building 査定のためOSHAの承認を要請 EPAにHAZMAT評価承認を要請 部族本部(カリフォルニア州リンカーン)でH班(部族) の通信支援 MERVとIRVを割り当て。MERSで内部無線	H班マイク・パーカー に直属  グレン・ゴールド 626-431-3268
11. 特別な指示または資源のニーズ  磁気サインを車両からはずすこと。あるいは、マークが入っていない車両で移動すること。 電気復旧推定日: ラホリア-11/11 メサグランデ-11/9 サンタイザベル-11/4 ESF 15が適切な方で通信文書を提供。連絡先: リンダ・ウェストコット (832)588-0456 OGC: ビクトリア・グレーが緩和部と協力し、FEMA部族協定を準備。部族リーダーと会見し、必要に応じて会合に出席 IRS連絡先: デビッド・ヤウ 電話#(213)220-5994 Email:david.yau@irs.gov				
12. 通信(本任務のために必要な連絡先無線及び/または電話番号) 連絡先リスト有: ビル・アダムズ (832)392-7056 班電話会議: 連邦活動本部: 毎日10:00PDT 800-430-4330 (PIN#はファーリー・ハウウェルに問い合わせのこと) H班: 2007年11月5日~11月6日 12:00 PDT 800-320-4330 PIN: 857311# 州・連邦政府調整: 毎日17:00 PDT 800-320-4330 (PIN#はファーリー・ハウウェルに問い合わせのこと)				

<b>医療計画</b>	1. 危機名 FEMA-1731 DR-CA	3. 作成日 2007年11月3日	3. 作成時間 18:00	4. 活動期間 2007年11月4日7:00 PDT~ 2007年11月5日7:00 PDT
<b>5. 緊急救護所</b>				
救護所	場所			<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 救急救命士 有                      無
JFOにおけるAED/CPR応対対応者リスト	すべての警備AED, CPR, FA			
安全担当官	安全部			
警備担当官	警備部			
看護士	ウェイン・グラント NP (職場)626-431-3812 (携帯電話)818-985-7836 JFO325室 営業日 毎日7-7			
<b>6. 輸送</b>				
A. 救急車サービス				
名称	住所	電話番号	救急救命士 有                      無	
ガーディアン救急車サービス	1854 サウスフェアオークスアベニュー パサデナ, CA	626-792-3688		
パサデナ消防署	100 N ガフィールドアベニュー、パサデナ	626-744-4655	x	
B. 災害時救急車				
名称	住所	電話番号	救急救命士 有                      無	
<b>7. 病院</b>				
名称	住所	電話番号	救急救命士 有                      無	
ヘルスケア・パートナーズ・メディカルグループ	401 サウスフェア オークスアベニュー パサデナ, CA 91103	626-795-2244		x
ハンチントン・メモリアル・ホスピタル	100 ウェストカリフォルニア ブルバード パサデナ, CA 91103	626-397-5000 626-397-5294	x	
カイザー・パーマメント	450 レークアベニュー パサデナ, CA 91208 1-800-954-8000	1-800-954-8000		x
ベルドゥゴ・ヒルズ・メディカルセンター	1812 ベルドゥゴブルバード グレンデール, CA 91208	818-790-7100	x	
<b>8. 医療救急手順</b>				
<b>救急</b> A. 911に電話し、緊急を告げる B. 負傷した人を支え、励まし、安心させる。 C. 応急手当、CPR、及び/またはAEDの訓練を受けた経験のある人は、訓練の範囲内で医療補助をしてもよい。 D. 緊急事態が血液やその他の体液を伴う場合、適切な保護具なしに触らないこと。 E. 脊髄損傷の疑いのある場合は、動かさない。 F. 緊急事態を警備担当官、安全担当官、またはあなたの統括責任者に報告すること。				
ICS-206 FEMA	9. 作成者 メルベン R. マフス 副安全担当官		審査 ディブ・チャワガ 安全担当官	

## 緊張を減らす10のヒント

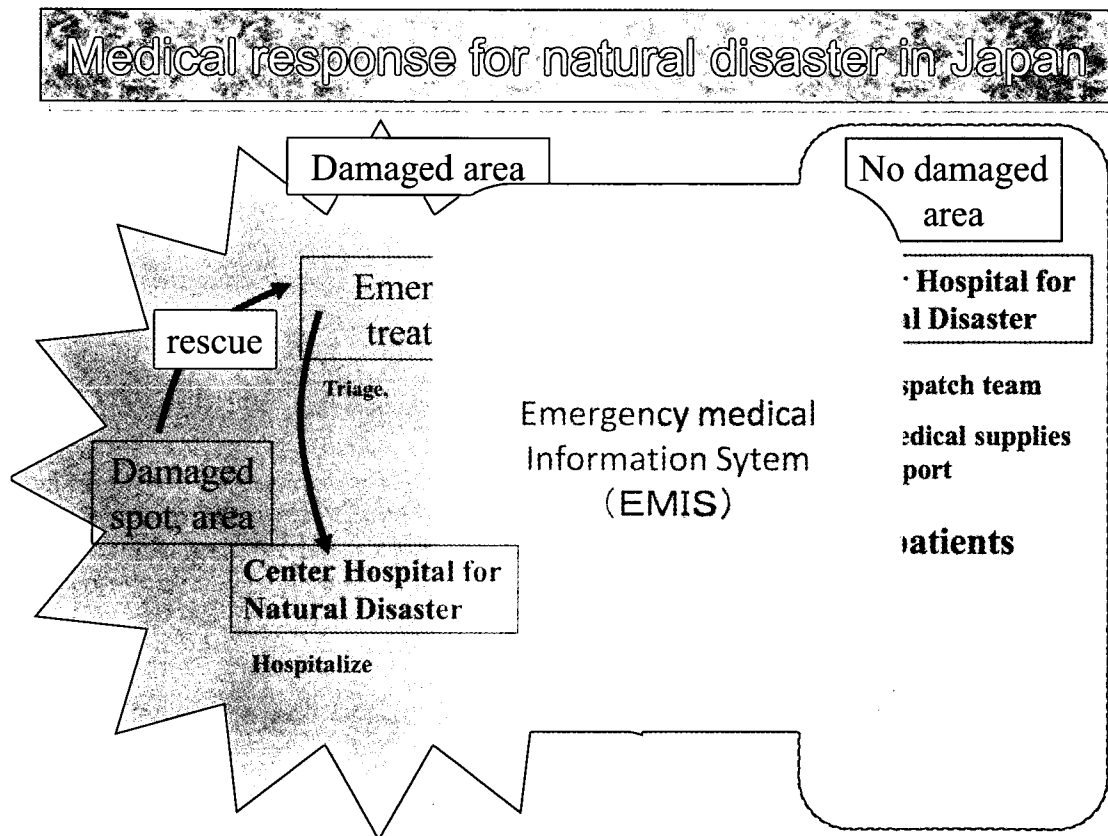
1. 小さなイライラを避けましょう。ストレスの多い状況避けましょう。車の乗りあわせ、ラッシュアワーを避け早めの出発をするなどしてください。店に行くのは、夜や夕食時など混んでいない時間帯にしましょう。
2. 運動をしましょう。体調がよいと、ストレス起因の病気になりにくいものです。また、定期的に運動をすると、ストレスによる筋肉の緊張を和らげます。
3. ユーモアのセンスを保ちましょう。ストレスとなる場面にも笑えるように、またそれに対する自分の反応にも笑えるようになってください。それで、その状況そのものが変わるわけではありませんが、プレッシャーがなくなるでしょう。
4. リラックスする時間をとりましょう。仕事や計画で一杯にしないでください。何もしない時間を少しとっておきましょう。緊張をほぐすだけの時間をあなたの体が必要としています。
5. 問題を共有しましょう。精神的につらいことを、家族、友達、同僚、プロのコウンセラーなどに話してください。外に吐き出すのは、いいリラックスになります。
6. 一度にたくさんの生活様式を変えないようにしましょう。大きな変化に直面しているときは、それに適応するまでは、他にストレスを生むものを新たに引き受けないようにしましょう。
7. アルコール、砂糖、カフェインの摂取を減らしましょう。ストレスを減らすために摂取すると、かえってストレスになることがよくあります。栄養のある食事を規則正しくとりましょう。ストレスを減らす目的だけで食べるのは避けましょう。
8. 十分睡眠をとりましょう。体の立て直しをする時間が必要です。特にストレスのあるときはそうです。
9. 優先順位をつけましょう。すべてのことをできる人などいません。ましてやすべてを一度にできる人はいません。しなければならぬ仕事をしっかり見つめてください。重要度の高い順に並べ、一度に一つずつ取り組み、一つが終了してから次に進みましょう。
10. 人と協力しましょう。激しくやりあい、正論ばかり主張して対立するより、協力する方がいいです。

毎日の会議スケジュール		1.危機名 FEMA-1731-DR-CA	2.作成日 2007年11月4日	3.作成時間 16:00
4				
時間	会議名	目的/参加者	会議場所	
7:15	個別支援部門ディレクター会議	個別支援部	会議室1008	
8:00	HHS	フェナー	状況把握部ルームA	
8:00	司令部・一般参謀会議	部長	IA 会議室	
8:30	DRC 調整電話会議	DRCグループ、住宅支援グループ	状況把握部ルームA	
9:00	渉外	渉外	IA 会議室	
9:00	財務	財務	状況把握部ルームA	
10:00	DRC/LAC 計画会議	DRCグループ統括長 ジャック・プロデリック	会議室1008	
10:00	対応班・部電話会議	ファーリー・ハウエル	IA 会議室	
11:00	OPS 方策会議	204開発	会議室1008	
11:00	集団方針会議	電話会議	状況把握部ルームA	
11:30	ESF6 HQ 電話会議	電話会議	IA 会議室	
12:00	集団方針会議	集団ケアグループ	IA 会議室	
12:00	部族特別作業班	部族リエゾン・他連邦機関	IA 会議室	
13:00	安全会議	安全部員	状況把握部ルームA	
15:00	J.H.T.F	J.H.T.F	状況把握部ルームA	
16:00	計画会議	企画・活動・後方支援・財務	状況把握部ルームA	
ICS-OS-230 8/96		作成者:状況把握部リーダー		

# Progress of first medical response to disaster in Japan

## Niigata Tyuuetu-oki earthquake 2007

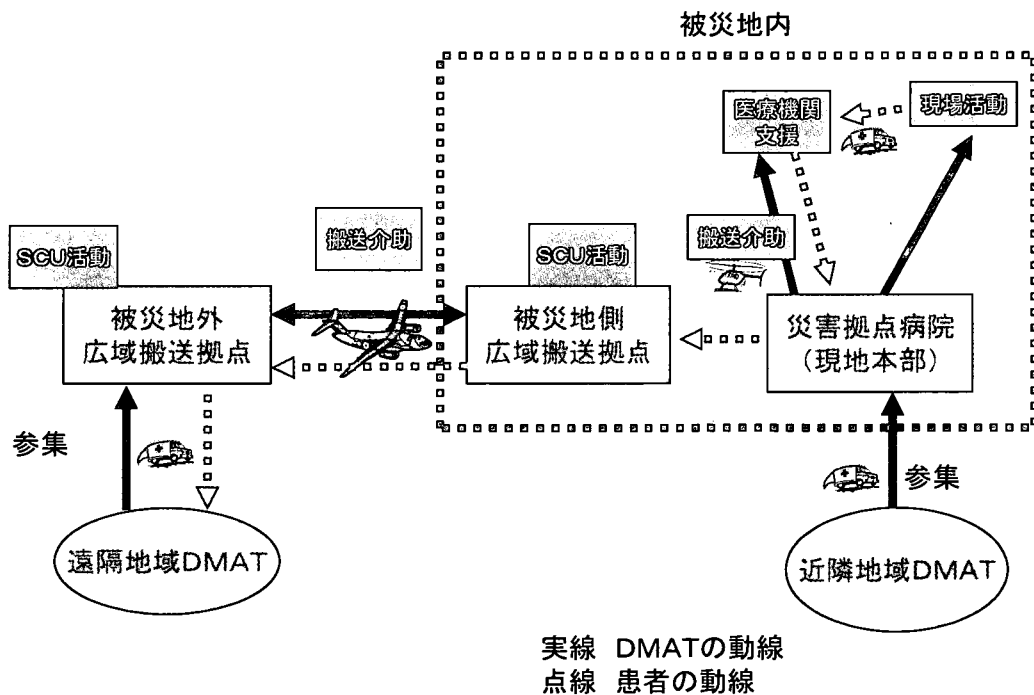
Hisayoshi Kondou M.D., Ph.D  
 Japaneases Medical collage Hospital  
 高度救命救急センター  
 近藤久禎



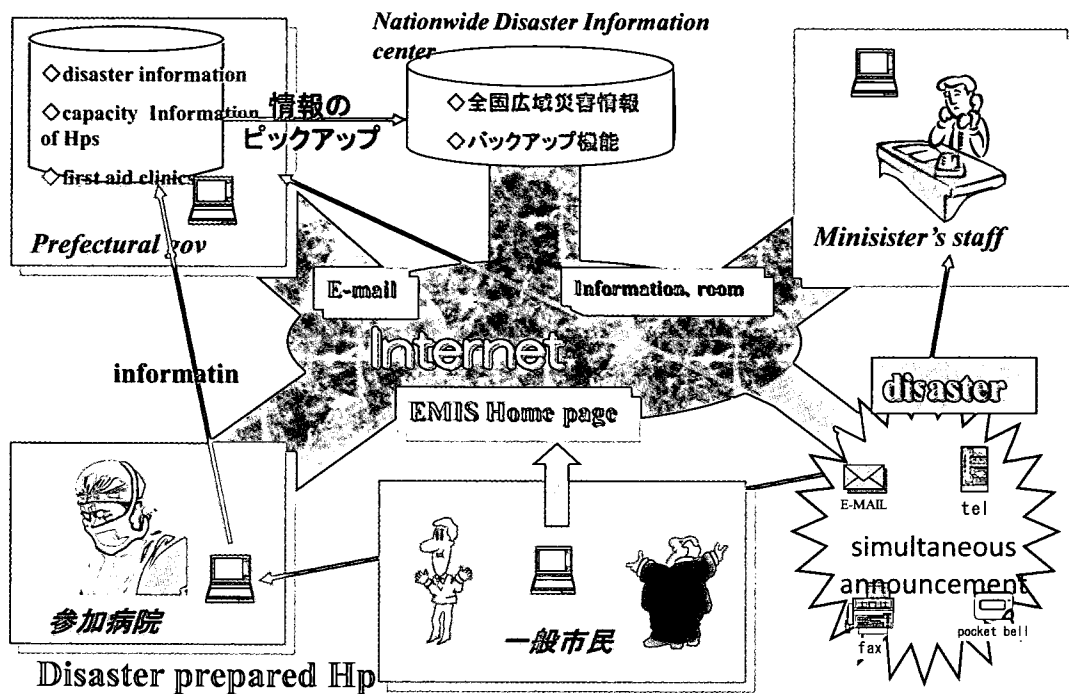
# DMAT in Japan

- DMAT
  - Trained dispatch team for disaster emergency period (within 48 hours)
- Legal background
  - Japanese disaster prevention master plan
  - 日本DMAT活動要領(厚労省医政局指導課長通知)
- Readiness
  - 268 Institutes, 361 teams, 2171 persons, trained
- Responsibilities
  - prefectures: DMAT assignment、協定締結、
  - nation: 活動・要員研修の標準化、要員の認定、災害時の総合調整

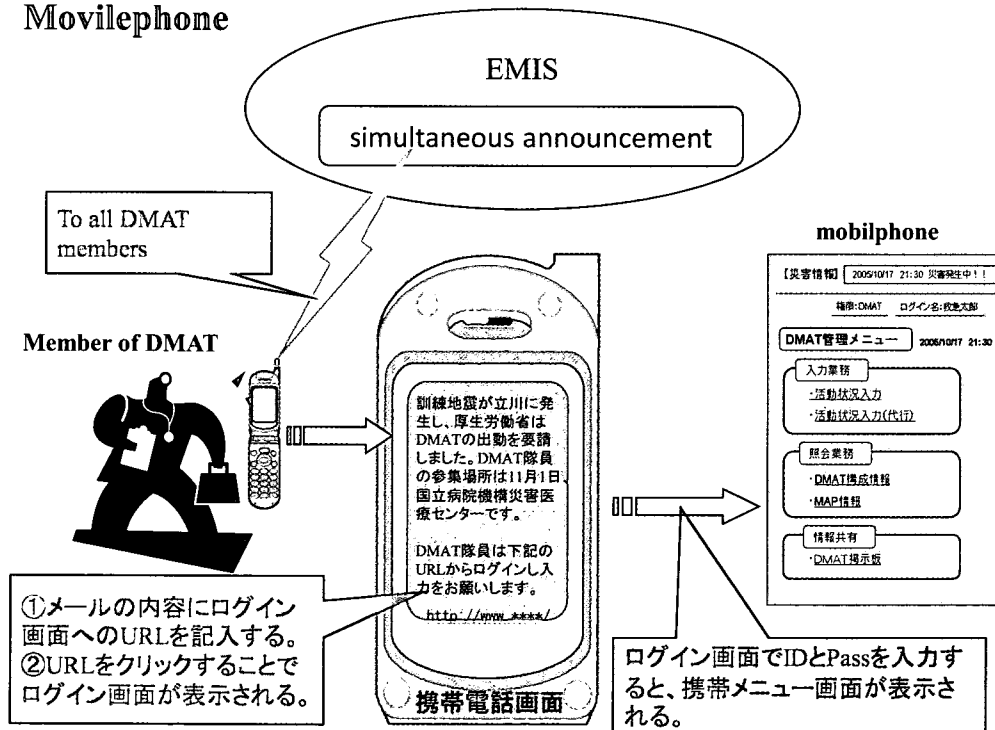
## DMATの活動



# Emergency medical Information system in Japan



## Calling and capacity information system using Movablephone





## 主な機能

### ■ 活動状況入力

#### ◆概要

DMATチーム（指定医療機関）が活動状況の入力を行う。

#### ◆利用者（入力者）

DMATチーム（指定医療機関）  
※都道府県担当者も代行して入力することができます。  
→活動状況入力（代行）

## Japan DMAT Activities

- a tornado at Hokkaido: Nov. 2006, 9 deaths
  - 2teams into action
- an avalanche: Feb 2007,12 victims 2 deaths
  - 2teams into action
- *belly landing* At Kochi airport: Mar 2007, No victim
  - 2 teams on call from Kochi
- Earthquake Noto: Mar 2007,355 victims 1 death
  - 127 teams on call
  - 13 teams dispatched from the around area , 9 teams into action

# DMATactivitis at Tyuuetsuoki Earthquake July 2007

- 10:13 Earthquake happend
- 10:30 EMIS action
- 10:33 request to all DMAT teams from M of H and Labor  
DMAT dispatched from the hospital (Niigata citizens Hospit  
I) in the neighboring area
- 13:35 First DMAT team from the neighboring area arrived at hospit  
al(Kariha) in the center of damaged
- 13:50 2 patients evacuated from Kariha Hospital by Chinook helicopt  
er of Defece Force
- 14:19 Call dispatch to neighboring prefectures from MHL, Kariha Hp
- 15- many DMAT teams were sent voluntarily to Kariha Hp

## DMAT 参集状況

From  
15 prefectures  
40 Hospitals

Other prefectures

Neiboring prefectures

By helicopter

DMAT	派遣元	直線距離	到着時刻	発災からの時間
新潟	新潟市民	100km圏内	13:35	3:22
千葉	日医大北総	200km圏超	13:45	3:32
新潟	村上総合		14:02	3:49
新潟	新潟県立中央	100km圏内	14:25	4:12
新潟	長岡日赤(除内藤)		15:18	5:05
長野	相澤		15:40	5:27
富山	富山県立中央		16:00	5:47
群馬	群馬大学	200km圏内	16:10	5:57
石川	金沢医療セ		16:40	6:27
石川	金沢大学		16:50	6:37
新潟	下越	100km圏内	17:00	6:47
石川	金沢医大	200km圏内	17:30	7:17
山形	山形県立中央	200km圏超	17:40	7:27
富山	富山大学	200km圏内	17:50	7:37
東京	災害医療セ	200km圏超	18:07	7:54
山形	公立置賜	200km圏内	18:10	7:57
長野	信州大学	100km圏内	18:10	7:57
福島	会津中央		18:20	8:07
群馬	済生会前橋	200km圏内	18:20	8:07
群馬	前橋日赤		18:25	8:12
福島	太田西ノ内		18:30	8:17
宮城	東北大学	200km圏超	18:30	8:17
茨城	取手医師会病院	200km圏超	18:30	8:17
群馬	日高	200km圏内	20:30	10:17
神奈川	北里大学	200km圏超	20:45	10:32
福島	福島県立医大	200km圏内	21:00	10:47
東京	東京大学	200km圏超	21:00	10:47
福島	白河厚生	200km圏内	21:30	11:17
東京	日本医大	200km圏超	22:00	11:47
山梨	山梨県中+富士吉田	200km圏超	23:15	13:02

# Evacuated patients

**16日18時までに  
By the Helicopters 8 patients  
(のべ6機)**

**長岡(日赤)  
新潟(市民病院・大学病院)  
By the Ambulances 16 patients**

**長岡日赤(中継拠点)  
十日町病院**

長岡日赤が  
域内SCUとして機能

新潟市民病院熊谷先生資料改変

年齢	性別	症状	搬送先	搬送方法	出発時間
63	男	心筋梗塞	新潟市民	空自ヘリ*	1400
48	男	骨盤骨折	長岡日赤	ドクヘリ	1420
56	女	頭部外傷	新潟大学	空自ヘリ*	1455
36	男	左下肢靭帯損傷	新潟市民	ドクヘリ※	1529
6	女	頭部・両足打撲	新潟市民	ドクヘリ※	1529
79	女	右胸部打撲	長岡日赤	県防災ヘリ	1544
58	男	イレウス(院内急変)	新潟大学	海保ヘリ	16?
87	男	頸椎骨折、中心性頸損、下肢捻挫	新潟大学	横浜ヘリ	17?
87	女	左大腿骨頸部骨折	十日町	陸路	1530
48	男	右前腕開放骨折	十日町	陸路	1538
53	女	左足骨折	十日町	陸路	1538
9	女	右頭部切傷、左下肢骨折	長岡日赤	陸路	1538
7	男	右大腿骨骨折	長岡日赤	陸路	1538
78	女	左足デグローピング	長岡日赤	陸路	1622
74	女	頭部外傷	十日町	陸路	1629
17	女	左股関節骨折	十日町	陸路	1629
39	女	左下肢骨折	長岡日赤	陸路	1642
72	男	左手小指切断	長岡日赤	陸路	1642
51	女	下肢骨折	長岡日赤	陸路	1642
81	女	右大腿骨頸部骨折	長岡中央	陸路	1658
87	男	尿路感染疑い	長岡日赤	陸路	1658
22	男	腰椎骨折	十日町	陸路	1705
58	女	大腿骨頸部骨折	長岡日赤	陸路	1705
68	男	慢性呼吸不全、発熱	十日町	陸路	1744
79	男	左大腿骨頸部骨折	長岡中央	陸路	1853
74	女	脳出血	新潟労災	陸路	2235

ワシントン D.C. 施設訪問記録

岡山市保健所 中瀬克己

2007年11月5日(月) -7日(水)

11月5日(月) 午前

訪問施設・所属 CiMeRC: National Bioterrorism civilian response center

対応者 Sherri M. Jurgoens, MPH および Taryn A. Gillson

FEMA, Disaster Operations Directorate Operations Planning Unit, Program Analyst, Mr. Leo Bosner

内容 CiMeRC マニュアルの活用について協議

- ・ 翻訳版使用について合意を確認。地域ごとに改変してもよい、と日本で制度や地域に合わせて変更し  
用いることに快諾を得た。
- ・ 当マニュアルはアルゼンチン、ブラジルでも活用している。それぞれの国情に合わせるために国レ  
ベルでの会合をもち、その経験は有用であった。来年春に新しい版を作成予定で、障害者などへの  
対応と評価部分を充実させる予定。
- ・ 当センターは実際の地域での演習を行っているわけではないので、活用の評価はHPからのダウン  
ロード数などが主である。
- ・ 引き続き連絡を取り、アルゼンチン、ブラジルでの経験も生かして日本での活用を進めるに当た  
って協力をいただける。また、翻訳のできたマニュアルを实际使ってみて意見交換を続ける予定。  
▶ フィラデルフィアでは広域で使われているということなので、活用事例や使用しての評価など  
を後日頂くこととした。
- ・ シミュレーションであってもあまり詳細な連絡先などの情報を記載することは、テロなどを考える  
とよくない。限定された相手にもみ伝わる場合とは分けて考えるべき、との注意点の指摘がありわ  
が国ではあまり考慮されていない視点であるが重要であると感じた。

11月5日(月) 午後

訪問施設・所属 The George Washington University, Institute for Crisis, Disaster, and Risk  
Management

対応者 Associate professor and Co-Director Joseph A. Barbera M.D. Senior Research Scientist  
Gregory Shaw D.Sc

FEMA Disaster Operations Directorate Operations Planning Unit: Program Analyst Mr. Leo Bosner

内容 ICS と広域災害情報システム (EMIS) について討議

日本における中越沖地震時のDMA T対応を提示 別添 資料4

資料: Medial Surge Capacity and Capability

主に災害時の急性期対応について協議した。ICS は夢の解決法ではなく、協力を進めるための枠組み  
である。現場業務の決定プロセスと全体像の把握、参加チームの概要把握ができる。

現場で決定するのは少人数の各部門の責任者が集まって行う。公衆衛生、警察、FBI、HLSecurity と  
いった分野である。集まるべき分野の代表は事例によって差も出てくる。

決定したプランを共有するため担当時間内の参加者向けの基本情報を作成する。内容は、分野別参加チーム名（州、チームなど）、リーダー名、交信用の周波数、注意点、・・退去  
重要なのは合意である。これを配信するシステムや情報交換手段は次のステップである。  
参集チーム数、到着、帰還という全体の動きの基本を確実に把握・コントロールする。  
このような危機時の基本対応は軍に似ていると感じた。

例えば、9.11 の際のペンタゴンでのプランでは、軍事的な優先度が高いなど。

また、中越沖地震時の DMA T 対応（日本医科大近藤先生作成のパワーポイントファイル）を説明の上  
討論した。中越沖での DMAT 対応に対して、呼ばれていないチームが来るということは同時多発危機の  
発生やチームの交替を考えるとよくないとの意見であった。また、各チームが独自判断で参集したとい  
う中越沖地震時の行動に対しては、全体的指揮への信頼が重要で基本であるとの意見であった。

両氏の意見では、CiMeRC のマニュアルはおおざっぱ過ぎて、米国内では実用的でないという評価であ  
った。Bosner 氏は確かに現在の米国の水準と比べると CiMeRC のマニュアルは初歩的で、米国では 10  
年以上前の状態とも言えるが、準備が進んでいない多分野間協力を進めるには、部門ごとの役割がわか  
り有用と考えているとのことであった。

11月6日（火）午前

訪問施設・所属 Washington D.C. Fire and Emergency Medical Services Department, Fire  
Engine02

対応者 Battalion Fire Chief Demetrios Vlassopoulos

Assistant Chief Medical Director Michael D. Williams M.D., DACS

Department of Homeland Security, Program Chair and Management Science of National Fire  
Academy Dr. Burton A. Clark

FEMA, Disaster Operations Directorate Operations Planning Unit: Program Analyst Mr. Leo Bosner

内容 ワシントン消防における ICS、IAP の運用の現状

資料：

1. カリフォルニア山火事での連邦・州政府合同 IAP : Joint State/Federal Incident Action Plan #14  
Southern California Wildfires
2. Situation Status Summary ICS209 Operational Period November 3, 2007-November 4, 2007
3. National Situation Report FEMA, November 2, 2007
4. IMS および IAP についての訓練計画書： FY 2006 NIMS Training Requirement
5. カリフォルニアでの台風派遣援助時の IAP : Hurricane Wilma Relief Effort: Glades County, Florida  
Incident Management Teams: Florida Region I, Roanoke, VA Fire & EMS,  
National Capital Region IMT 6th OPERATIONAL PERIOD: 11/01/05 FROM 0700 HOURS UNTIL  
2200 HOURS  
殉職した消防士の葬儀用 IAP (規模の大きな出来事では作成する。訓練の意味もあるとのこと) : Incident  
Action Plan 5<sup>th</sup> and final operational period' Firefighter Technician James J. Merae Lodd Memorial

## Ceremonies

Washington D.C.の消防局を訪問し局長と面会。

市内に34ある消防署の一つである Fire Engine02 を訪問し、署のコントロールセンターや消防車など施設を見学し働きの解説を受けた。

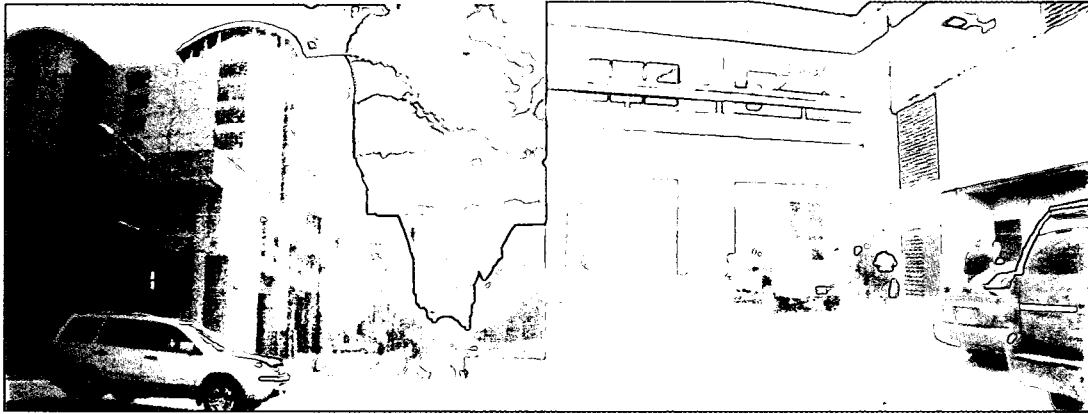


写真1, 2 FIRE Engine 2 (消防署) 手前の2階建建物の外観と裏

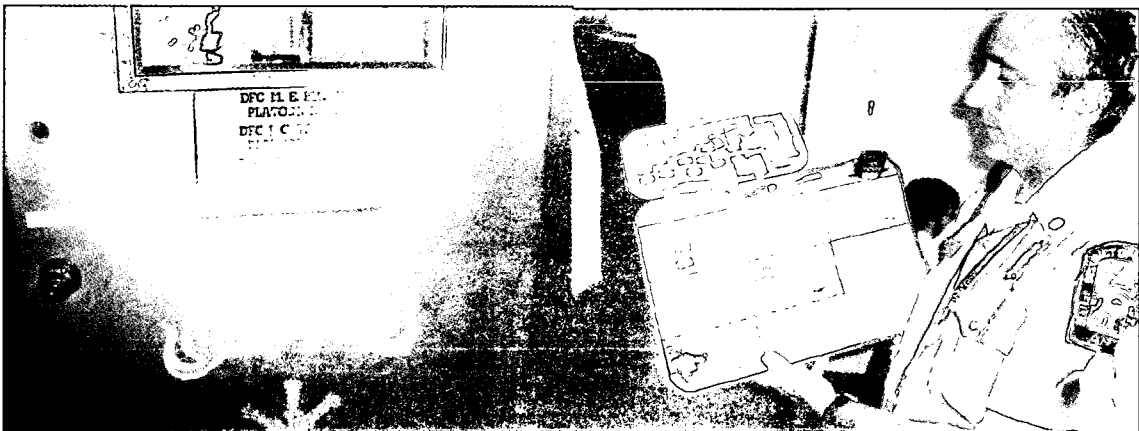


写真3, 4 シフトにより4名が分担して担当時間内の指揮を行う。4名が共用する署長室の名札 現場指揮用の車両配置とコントロールボード

チーフ一人が受け持てるのは7人が限度でありこれを元に組織を系統化させている。

消防車が救急機能を持ち、乗員は基本的な救急技術を持っている。更に救急車は基本チームと救命士の配置された advanced チームとがある。



写真5, 6 消防車に備えられている救急備品

1 次的な救急派遣チームの選択と指示は自動されており、距離を元に近くの車両から指定される。

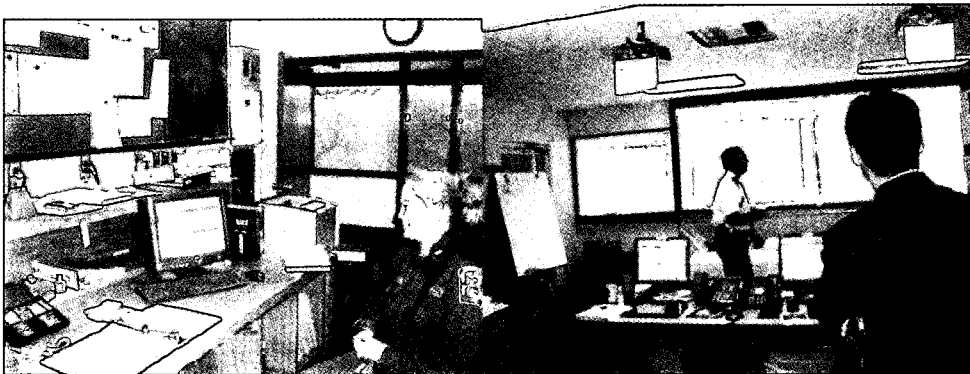


写真7, 8 FIRE Engine 2 (消防署) 内での Washinnton D.C.内の出動状況のモニタリング、1 階消防車車庫横、2 階モニタリングルーム

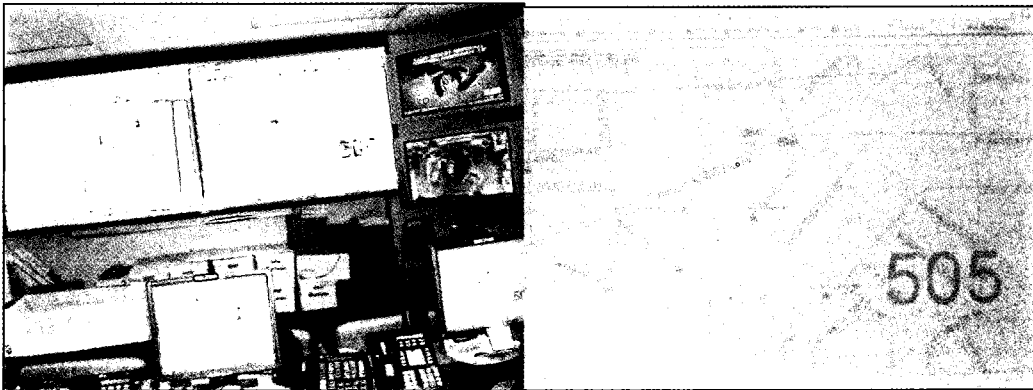


写真9,10 同 発信地点ともより消防・救急車の位置および稼働状況の地図表示

ICS 運用の実際や作成された Incident Action Plan およびその中に示される人と役割の配置図である Organizational Chart の具体例をもとに解説と討議を行った。ICS の訓練について質疑を行った。

11月6日(火)午後

訪問施設・所属 District of Columbia, Office of the Chief Technology Officer Information Technology Command Center

対応者

Assistant Chief Medical Director Michael D. Williams M.D., DACS

FEMA, Program Chair and Management Science of National Fire Academy Dr. Burton A. Clark

Battalion Fire Chief Demetrios Vlassopoulos

FEMA Disaster Operations Directorate Operations Planning Unit: Program Analyst Mr. Leo Bosner

市の警察・消防・救急統合のコントロールセンター(電話番号911)を訪し、市消防の医官から説明を受けるとともにその運用や症候群サーベイランスについて質疑を行った。

このセンターは911の1次コールセンターと消防、救急の2次派遣調整を行うセンターでもある。2次派遣の調整は、各々の調整官が行っている。それぞれ10年あるいはそれ以上の経験豊富な担当官である。調整のための基本情報は、搬送した救急・消防職員からの各救急病院の混雑程度や対応状況などの逐次報告、病院スタッフへの直接連絡、車両の稼働状況のモニタリング画面などからなっている。

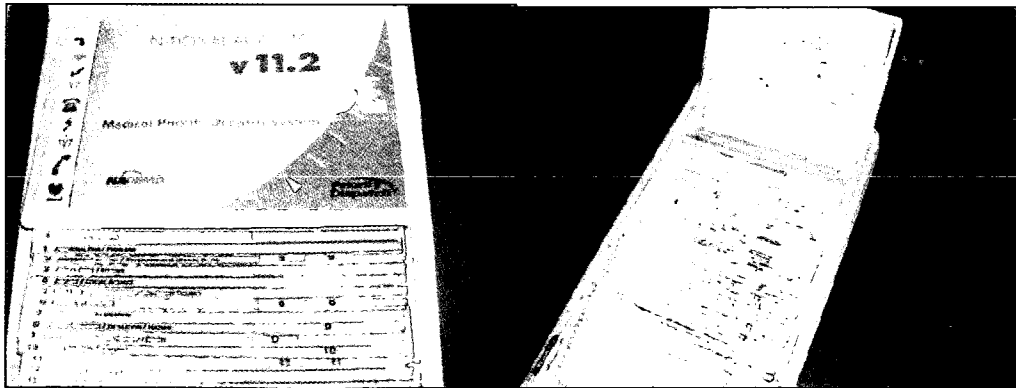


写真 11,12 911 担当者用の救急車が到着するまでの対応アドバイスの手順書 基本はコンピューター画面での把握情報に基づく質問およびアドバイスチャートによって行われている。写真は紙の手順書



写真 13,14 Command Center 内部 手前2人が救急、消防の2次調整担当官、立っているのが医官、救急の調整担当者画面



また、救急救命士と医官の役割についても質疑を行った。救命士の可能な医療行為の範囲が広がり、医官の指揮のもと行うという役割のために近年消防への医師の配置が進んでいる。基本は市の消防レベルに一人ずついることになっている。ワシントン D.C.は常勤であるが、規模が小さいところ等は兼務も多いとのことであった。なお、話をお聞きした担当官の前職は救急外科とのことであった。

また市の大規模災害時用のコントローセンターを見学した。V字型に関連分野ごと（財政面、救急医療など）に担当官の机・ディスプレイが配置されており連絡が取りやすくなっている。見学に当たっても警備が厳しかった。各州に HLS Emergency services 部門がどの州にもあり、国が予算を付けて施設整備を進めている。年に数回程度は実際に用いるとのことである。

11月6日（火）午後

訪問施設・所属 FEMA

対応者 FEMA, Program Chair and Management Science of National Fire Academy,

FEMA Disaster Operations Directorate Operations Planning Unit: Program Analyst Mr. Leo Bosner

内容 FEMA の危機時対応での役割説明

FEMA を訪問しコントロールセンターを見学した。ICS の機能を反映した座席配置となっており、各部門の FEMA 担当官はその分野での危機時対応経験が豊富な専門家である。発災時には FEMA 支部や州等の担当者と部門ごとの連絡を行う。また、FEMA の対応全体を取りまとめる担当官がおり政府への報告・提言や IAP も取りまとめられる。1例として FEMA の南カリフォルニア森林火災時の Incident Action Plan と Situation Status Summary の解説をうけ討議した。また、1日単位での全土での状況を取りまとめた National Situation Report の解説を受けた。

11月7日（水）午前

訪問施設・所属 FEMA

対応者 FEMA Disaster Operations Directorate Operations Planning Unit: Program Analyst Mr. Brian T. Applebee, Program Analyst Ms. Gail Oldershaw, Mr. Leo Bosner

内容 中越沖地震時の我が国の保健所の業務等を説明した後に日米の違いと改善点を討議した。

資料 わが国の自然災害時の対応を提示し討議した。 別添資料 5

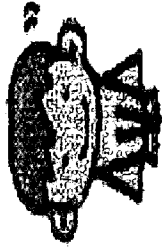
質疑の概要

- ・全体をマネージする機能が発揮されていないのではないか？
  - 阪神淡路での歯科医療の不足に対応できるよう応援を頼むシステム等の構築が必要であろう。
  - 個人の医療ボランティアを有効活用するためのシステムが動いていないのではないか
- ・全体を調整する基本的機能を元にした機構が Incident Command System であり具体計画が Incident Action Plan である。
  - 日本でも現場ではどんな援助が必要かは感じることはできるが、それを取りまとめて逐次報告にすることができていない。米国での体制と較べてわかった大きな理由は1. 取りまとめる体力的余裕がない（米国では勤務のシフトを行っている、その体制を IAP という形で管理してい

る) 2. 取りまとめを担当する人を確保している という2点であると感じた。

- ・ IAP は時間設定が明確であり、シフトによる人の交代を明確にしているとともに、次の時期を担当するチームへ基礎情報を引き継ぐことができる。また、IAP において各機能担当者名を明確にし記録担当者も明確にしている。当初は12時間程度で交替するとのこと。
- ・ ICS によって明確にされた各機能に対応するコントロール担当専門家が FEMA にはおり、各分野における危機時の対応経験を深めることができる。
- ・ 支援内容は大きく変わらないようであった。
  - 食事 新潟地震でのうどん等と比較 米国より栄養的に優れていると評価
  - 水 (岡山市防災計画) 途上国と違い基礎的な脱水や水不足がないので1ガロン(3.8L) / 日・人
  - 避難所内の様子も大差ないとのこと。また、中越沖地震で作られた福祉非難所に相当する障害者、高齢者等の特別ニーズのある人向け避難所が設けられるとのこと。
  - 夜間に訪問や調査必要な点は米国も同じ
  - 臨時的地域指令センターは中心から少し離れた所に作られるのは同じ
  - 統合されたセンターである、という点では同じだがそこでの機能は上記のような差があるようだ。
  - ICS によって明確にされた各機能に対応するコントロール担当専門家が FEMA にはおり、各分野における危機時の対応経験を深めることができる。
- ・ 我が国の防災計画に被災程度の迅速評価計画と臨時的サーベイランスの計画がないのでこれを含めるべきという提言に、全くそのとおりの同意が得られた。
  - 防災計画に迅速評価、疾患サーベイランス等のモニタリングシステムが含まれているか、調査するのは有意義と思われる
- ・ DMAT ボズナー氏の意見では、DMAT は早くとも24時間、1-2日後以降の援助でありそれまでは地域で支え、疲れがでてきた時期に交替ができるようにするとのこと。また、その後も2週間くらいまでをカバーするとのことであった。

## 市民の皆様へ



具合が悪い、夜不安で眠れない、生活が困難である、落ち着かない、どうしたらいいかわからない・・・など困ったときには、早めにご連絡ください。

緊急連絡先	電話番号
柏崎市災害対策本部	0257-21-4886
元気館(柏崎市元気支援課)	0257-20-4210
柏崎市福祉課 ホテルや旅館に無料でご宿泊いただける制度のご案内	0257-21-2234
柏崎健康福祉部(柏崎保健所)	0257-22-4165
こころのケアホットライン (8:30~22:00) 不安で眠れない、何も手につかない、いらいらして落ち着かないなどお気軽にご相談ください。こころのケアの専門相談員が応じます。	025-281-5773 0120-913-600 (フリーダイヤル)
災害ボランティアセンター (社務福祉協議会内) 窓の掃除、片付け、荷物の運び出し、子どもの遊び相手、お年寄りの話し相手などのお手伝い	0257-21-4122
被災者相談所 被災者生活再建支援、住居緊急修理、被災住居の解体廃棄物処分、被災者の相談など 場所：市役所分館2階会議室 (8月1日から)	0257-43-9128 (FAX:0257-23-5070)

## 市民の皆様へ



具合が悪い、夜不安で眠れない、生活が困難である、落ち着かない、どうしたらいいかわからない・・・など困ったときには、早めにご連絡ください。

When you feel bad or sleepless or any difficulties !  
Information for citizens

緊急連絡先	電話番号
柏崎市災害対策本部	0257-21-4886
元気館(柏崎市元気支援課)	0257-20-4210
柏崎市福祉課 ホテルや旅館に無料でご宿泊いただける制度のご案内	0257-21-2234
柏崎健康福祉部(柏崎保健所)	0257-22-4165
こころのケアホットライン (8:30~22:00) 不安で眠れない、何も手につかない、いらいらして落ち着かないなど お気軽にご相談ください。こころのケアの専門相談員が応じます。	025-281-5773 0120-913-600 (フリーダイヤル)
災害ボランティアセンター (社会福祉協議会内) 家の掃除、片付け、荷物の運び出し、子どもの遊び相手、お年寄りの話し相手などのお手伝い	0257-21-4122
被災者相談所 被災者生活再建支援、住宅緊急修繕、被災住宅の解体廃棄物処分、融資制度の相談など 場所：市役所分館2階会議室 (8月1日から)	0257-43-9128 (FAX:0257-23-5070)

平成19年7月31日 柏崎健康福祉部(柏崎保健所)

臨時広報

平成19年7月30日

## 新潟県中越沖地震

平成19年7月16日に発生した「新潟県中越沖地震」は、私たちのふるさと柏崎に大きな被害をもたらしました。お亡くなりになりました方には、心から哀悼をお祈り申し上げます。また、負傷された方々を全回復させている方々には、お見舞い申し上げます。いま、市は、国、県をはじめ全国各地の多くの方々の温かい支援をいただきながら、関係機関とともに災害復旧にあたってまいります。

この臨時広報では、「新潟県中越沖地震」の発生状況や被害状況、各面の復旧に向けた支援策などをお伝えします。

柏崎市災害対策本部長 柏崎市長 合田 洋

### 1 地震の発生状況

7月16日(月)10時13分ころ、上中越沖を震源地とした大規模な地震が発生し、柏崎市で震度6強を記録しました。地震の規模を示すマグニチュードは6.8であり、発生後の7月26日までに127回の余震を震測しています。市では、災害対策基本法に基づく災害対策本部を7月16日10時53分に設置しました。

### 2 被害の状況等

#### (1) 人的被害状況(7月27日現在)

死亡10人 負傷1,339人

#### (2) 家屋(住宅)の被害状況(7月27日現在)

全壊家屋908棟 大規模半壊111棟

半壊家屋721棟 一部倒壊10,087棟

#### (3) ガス・水道の復旧状況(7月28日現在)と今後の見通し

・ガス 対象戸数30,078戸中、復旧戸数2,801戸

※(注)日本ガス協会のご支援を受けて修繕・関係企業を呼んでおこなったため、被害が大きい地域を除き、8月10日ごろまでの復旧を目指して修繕の努力をしております。もう少しお待ちください。

・水道 対象戸数40,280戸中、復旧戸数33,330戸

※全ての地域に7月中旬には復旧することとしていますが、被害の状況などにより、遅れに落ちないところありますので、もう少しお待ちください。

#### (4) 原子力発電所の状況(7月27日現在)

全号稼働中

放射能による環境への影響はありません。

### 3 避難の状況(7月27日現在)

(1) 避難所開設数 61か所(最大時78か所)

(2) 避難者数 1,601人(最大時11,410人)

(3) 避難指示 5地区 62世帯 172人

(4) 避難勧告 10地区 8日世帯 248人



被災地の様子



被災地内の風景